

# 医療ソーシャルワーカー

YK 大学：社会福祉学部・社会福祉学科・2年

期間：令和5年9月4日～8日（5日間）

私は将来、医療ソーシャルワーカーになりたいと思っています。今回のインターシップでは、医療ソーシャルワーカーの実際の仕事内容を知ること、どのように患者さんと接しているのか、関わっているのかを学ぶことを目標に設定し参加させていただきました。病院について、医療ソーシャルワーカーの基本的な仕事内容について、患者さんやそのご家族との関わり方について、関連施設についてなど、様々なことを学ばせていただき、そのすべてがとても勉強になりました。

私は今回のインターンシップで様々なことを学ばせていただきました。ここでは特に印象に残っている3つのことについて述べていきたいと思います。1つ目に学んだことは患者さんと関わる中での難しさです。患者さんの意思を尊重することは大切ですが、それがご家族の意思と一致しない場合や、患者さん自身の現在の身体や心の状態では意思を尊重できない場合があります。また、こうした問題の背景には患者さんのご家族に迷惑をかけたくないという思いや、お金の問題など、外から見ていただけではわからない原因もあると考えられます。さらに、話し合いを重ねそれぞれの意見をすり合わせていくことが重要だと考えられますが、コロナ禍ということもあり、話し合いが十分に行えないという場合もあるようです。

2つ目に学んだことは、1つ目の学びで問題に直面した際に感じた医療ソーシャルワーカーの大切さです。医療ソーシャルワーカーは患者さんの選択肢の幅を広げることができると私は考えます。もちろん選択肢の幅が広がることで患者さんを悩ませてしまうという可能性もあります。ですが患者さんとそのご家族がより良い選択ができるよう支援することも医療ソーシャルワーカーの役割だと感じました。また、患者さんとそのご家族の不安をできる限り取り除くことも大切な役割のひとつです。医療ソーシャルワーカーは専門職であり、だからこそ様々な知識を持ち、患者さんやそのご家族が疑問を感じた際には迅速な対応をとる必要があります。

3つ目に学んだことは大学での学びがどれだけ大切なのかということです。先述したように医療ソーシャルワーカーは専門職で様々な知識が必要とされる職業です。今回インターンシップに参加させていただいた中でも、お世話になった方々は沢山の知識を持っていらっしゃいました。その知識の中には大学2年生の現在、学び終えたものや聞いたことがあるものもあり、大学での学びが直接将来につながっているのだと気づきました。これまでも大学の学びを軽く考えていたことはありませんが、より一層日々の学びを大切にしていきたいと思いました。

私は今回のインターンシップを通して沢山のことを学ばせていただき、以上の3つが特に印象に残っています。また、今まで医療ソーシャルワーカーに抱いていたイメージより、より患者さんとそのご家族に寄り添った支援を行う相談員の皆さんを間近で見させていただき、私も将来はこんな風に働きたいと思いました。インターンシップを受け入れていただいたことに大変感謝しています。

# 理想の普通の生活」とは

A 大学：医療学部・健康栄養学科・3年

期間：令和4年9月9日～11日（3日間）

私は、9月9日から11日までの3日間、児童養護施設でのインターンシップに参加しました。

初日は児童養護施設に関する説明を受け、どのような子が利用しているのか、どういう過程を経て入所に至るのか、そして近年の児童養護施設での取り組み等について学びました。その後は施設内の案内を受けました。近年、児童養護施設では、「普通の生活」を保障するために、施設の小規模化が推進され、本園の他に小規模グループケアが3棟創設されていました。案内を受けた後は、本園で生活する小学生の宿題の様子を見学しました。施設の子供と会う前は少し緊張をしていましたが、学校から下校した子供は皆元気いっぱい「ただいま！」と挨拶をしていて、とても明るい良い子たちだという印象を持ちました。

2日目は起床時の様子から朝食、宿題の様子を見ました。朝7時に起床の声掛けを行った時、なかなか起きられない子もいれば、出掛ける準備まで済ませている子もいました。その後は、本園の調理室で昼食の調理補助を行い、そこで本園での食堂運営等について学びました。大学では児童養護施設で実習を受ける機会が無いため、とても貴重な体験をすることが出来ました。

3日目は、本園幼児のおやつの様子を見た後に散歩に同行しました。施設は、自然豊かな場所であり、近くには有名な温泉があります。散歩の途中で、地域の方々と何度かお会いしました。どの方々も施設に住む子供達の事を見守り、とても温かい人ばかりでした。その後は小規模グループケア施設で夕食の調理補助を行い、夕食を共にしました。「小規模グループケア」という名前はありますが、実際は本当に「普通の家」と変わりませんでした。夕食の準備では、そこに住む子達も積極的に職員さんのお手伝いをしていました。その様子は「夕食を一緒に作る親子」のようでした。

3日間のインターンシップを終えて、私は理想の「普通の生活」とはどんな生活なのかを考えるようになりました。私は両親が共働きで祖母と過ごすことが多く、親と一緒に過ごす時間は他の家庭よりは比較的少なかったかもしれませんが、祖母がいることで寂しさをあまり感じることはありませんでした。その事から、私が思う「理想の普通の生活」は、衣食住が揃い、規則正しい生活が出来る状態で、自分を常に傍で見守ってくれる人がいる生活であると考えました。3日間の中で様々な子供のトラブルが発生しましたが、どんな時でも職員さんが見守り、常に子供の事を考えた声掛けを行っていました。親に会うことが難しくても、代わりに常に見守ってくれる人達が傍にいることは、子供たちにとってとても大切なことなのだと感じました。また、対象者の事をよく知り、対象者の思いに寄り添った支援を行うことは、私が目指す管理栄養士においても重要であると改めて感じました。

将来、私が支援する側となった時は、今回のインターンシップで学んだ“対象者に寄り添った”支援を心掛けて日々努めていきたいと強く心に感じています。

# インターンシップを通して

Y J 大学：家政学部・管理栄養学科・3年

期間：令和4年8月19日～29日（5日間）

私は今回、歯科医院でのインターンシップに参加させて頂きました。そこで、歯科医院で働く歯科栄養士の業務を見学・体験し、歯科栄養士についてしっかりと知ることができました。このインターンシップに参加するまでは、歯科栄養士の仕事内容等あまりイメージがつかず、歯科医院に管理栄養士が活躍できる場があるのだろうかという疑問に思っていました。しかし、今回のインターンシップに参加して、歯科医院にこそ、管理栄養士が必要であると感じました。今回参加させて頂いた歯科では、健康な人が定期的に通い、虫歯や歯列の悪化を予防するといった予防歯科に力を入れていました。そこで、歯科栄養士がいることで、食べ物や食べ方から虫歯や歯列の悪化を防ぐことができ、小児の歯列矯正 ZERO、虫歯ゼロになります。

今まで、働くとはどういうことなのかを、小学生のころから、授業で学ぶ機会がありましたが、遠い未来の事だとあまり想像がしにくく、しっかりと考えられていなかったように思います。それが、中学生、高校生、大学生と成長していくことで、働くとはどういうことなのかを、より明確に考えられるようになってきました。生きていく中で、働くということは切り離せないものであり、社会に貢献できることから、自分の生きがいに繋がるものだと思います。

今回、インターンシップに参加させて頂き、歯科栄養士としての専門的な知識を学ぶことができました。仕事内容としては、歯科助手、唾液検査からの結果説明及び栄養指導、カウンセリング、フライヤーの作成、SNSによる情報発信等がありました。歯科栄養士は、虫歯になりにくい食事の栄養指導、食育の形態から子どもの顎の筋肉を鍛え小児の歯列矯正を防ぐ指導、食事のとり方等、食べ物の視点から歯科問題を予防し解決につなぐ職業であると学びました。また、私は高校生の頃に、顎変形症、具体的には歯並びの悪さと下顎後退、開咬と診断され、歯列矯正だけでは治療が困難であるため、外科矯正手術も行うことになりました。そこで、初めて自分の歯の状態が深刻であることに気が付きました。手術や歯科矯正は非常に辛いものであり、大変でした。治療が終わった現在でも、幼少期の頃から予防をしていたら、自分の歯の状態は変わっていたように思えて、非常に後悔しております。私のように後悔している人は少なくないと思います。そこで、私が歯科栄養士として就職した際には、予防歯科をしていない子供や保護者を対象に、出張教室をしたいと考えています。出張教室から、保護者は予防歯科の大切さを知り、子供を連れて歯医者に行きます。そうすることで予防歯科をする人が増えていき、結果として子どもの虫歯なし、小児 ZERO 矯正に繋がっていくと思います。

今回のインターンシップで学んだことを心に留めながら、何事にも意欲的に取り組み、専門的な知識をより深めて、これからも自己研鑽に励んでいきたいと思っています。

# 多職種連携の重要性

YK大学：社会福祉学部・社会福祉学科・3年

期間：令和2年9月14日～18日（5日間）

今回、医療福祉系での5日間のインターンシップに参加させていただきました。そこで、老人保健施設での社会福祉士の業務に同行させていただき、多職種連携の重要性や老人保健施設の役割などを学ぶことができました。入所や退所時のカンファレンスに参加したり資料の作成の仕方を教えていただいたりと貴重な体験をさせていただき、この5日間を通して、将来について考えるきっかけになりました。

まず、老人保健施設とは病院から退院された後、自宅で生活するためのリハビリや日常生活動作を安定させるための施設で、社会福祉士やケアマネジャー、理学療法士や栄養士など幅広い職種の方がおられました。5日間の中でカンファレンスに参加させていただいたのだが、体の機能の様子は理学療法士から、食事の形態は栄養士から、体調の様子は看護師から情報共有がされており、様々な職種がそれぞれ違った立場からその方についての状態を伝えていました。幅広い専門職が同じ職場にいるので色々な分野に関わることができ、働きながら自分のスキルアップを図ることもできると感じました。特に社会福祉士は本人やご家族からの一番の相談窓口になるので、幅広い知識を身に着けなければならないと考えました。実際にカンファレンス後にご家族が社会福祉士に相談を持ちかけている様子が見受けられ、利用者のケアはもちろん、介護をする側の悩みや質問にも答えられるような知識や技術も欠かせないことが分かりました。

また、カンファレンスだけでなく、常に利用者の状態を様々な専門職が話し合っている場面が多くあると感じました。色々な立場からその方を見ることで体の調子が悪い原因が分かったり、解決策を導くことができたりと常日頃から情報交換をし、利用者をも角的視点から見ること重要なのではないかと感じました。そして、連絡事項や決まったことは漏れないよう伝達したり、何日までに何をしなければならぬと自分のスケジュール管理もその都度行ったりすることで効率よく物事を進めることができると考えました。

今回の5日間のインターンシップでは、社会福祉士の一日の様子や介護職員の仕事、理学療法士が行うリハビリの様子など幅広い分野の仕事を見学させていただき、多くの体験をさせていただきました。社会福祉士の幅広い知識や技術が様々な場面で活躍し、利用者の方やご家族の信頼へともつながるようにも感じました。また、5日間の中で自分の課題を見つけるとともに働くことについて考える機会にもなりました。老人保健施設をはじめ、どの職場でも人とのつながりは必ずあると思うので、利用者の方だけではなく、ご家族や職員同士でもコミュニケーションをとることは働く上で大切なことなのではないかと感じました。また、積極的に仕事に取り組むことで学ぶことも増え、何より経験を積むことは自分の将来に向けての土台になると考えました。この期間に学んだことを心に留め、今後も自分の将来を見据え、探求心を持って何事にも取り組んでいきたいです。

# 医療に関わる上で何を身に付けておくべきか

HK大学：医療経営学部・医療経営学科・2年

期間：令和元年8月19日～23日（5日間）

私は、講義で学んだ医療制度や保険の仕組み、診療情報の管理がどの様に実務事務作業に活かされ、行われているのかを学ぶことを目的として実習に参加しました。また、医療に関わる上で何を身に付けておくべきか早くから知りたいと考えていました。

実習先では1日目は、実習先の病院がどのような病院なのか伺った後、保険制度の基本について説明がありました。2日目は、病棟事務員の方と一緒にカルテを綴じる業務、患者さんの入院手続きや看護師の方の補助業務を行いました。3、4日目は、パソコン業務が中心で、薬剤料とリハビリの単位数の入力や入院料と食事料の点数確認を行いました。病棟業務は、医事課とは役割が全く異なり、看護師の方がスムーズに仕事することができるように業務を行っていることを学びました。5日目は、翌月の算定用紙作成や会議準備、病名と処方薬の照らし合わせを行いました。また、5日間の実習を通して、電話対応も学ぶことができました。基本的なマナーとして、電話に出たら先に自分から名乗ること、メモを取れる準備を常にすることを学びました。その他にも、電話を掛けてこられた方が何度も同じ説明をする必要がないように、用件が分かればすぐに担当者の方に電話を繋ぐことなど、患者さんから相談の連絡もある医療機関だからこその工夫もありました。

実習先の病院は、全国でも珍しいオープンシステムの病院であり、かかりつけ医が医師会病院の医師と協働で施設を利用できるという特徴がある総合病院であるため、急性期や回復期、障害者病棟などで担当の方が分かれています。また、病院で導入されているシステムは、パソコン入力業務の際に、入院料や食事料など自動算定の部分と、リハビリなど手入力をする部分があり、細かい部分の算定条件の確認が多くあるため貴重な経験となりました。

大学の講義では、医療制度の基本について学びましたが、今回の実習中には、様々な保険を適用している方や公費を適用している方もおられ、多くの方式を見ることができました。また、実務事務作業では算定が合っているのか、早見表を駆使して細かい条件まで確認する業務があることも学びました。その他にも、数か月前の入院記録などは近くの棚で保管されており、転院先や監査室などから問い合わせがあった際には、保険証の情報や治療内容がすぐ回答できるように管理されていることを知りました。

今回の実習では、講義で学んだ申請用紙の様式が実際にどの様に記入されているのかを見ることができ、教材では出題されていない算定の方法や、患者さんと接してみなければ分からないケースが多くあり大変勉強になりました。また、マナーの面では、医療従事者にふさわしい言動や服装など実習を経験してみなければ感じられなかった気遣いも学ぶことができました。今後の大学生活では、講義で法律や様式について学んでいくことも大切ですが、その法律がどの様な行為に関わるものなのか、様式にはどの様な記入事項があるのか実務を含めて興味を持ち考えていくことが重要であると感じました。